道徳の授業において、互いの考えに触れながら自らの考えを広げ深める児童
～ファシリテーションの工夫を通して～

太田市立世良田小学校
鈴木利佳子

Ⅰ　テーマ設定の理由

道徳のめあてである道徳性を育てるためには、児童が多面的・多角的に考え自己の生き方について考えを深めることが必要である。そのために、児童が本音で話し合い多様な意見について知る「考え・議論する道徳の授業」が大切になる。

自分の授業を振り返ってみると、活発に意見が出てはいるが、その実は発言する児童は限られていて、授業の進め方も教師との対話的なものが多かった。教師が児童の意見をまとめたり言い換えたりして授業を進めてしまっていたためと考えられる。そこで、児童に何を考えさせ何を語らせるのかを意識した明確な指導官をもち、児童が多角的･他面的に考えられるような発問を吟味していくことが必要である。また、より自分事として捉え、深く考えるための交流方法を探る事も大切であると考え、テーマを設定した。

Ⅱ　実践例

１　主題名　　本当の友達とは　　Ｂ－１０　友情･信頼
教材名　　「仲間だから」　（出典　「小学校の道徳４　はばたこう明日へ」）

２　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目Ｂ「友情･信頼」をねらいとしている。「友情･信頼」に関する内容項目は、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」となっている。友達は最も重要な人間関係の一つであり、児童にとっては学校生活が楽しくなるかは友達関係にかかっていると言っても過言ではない。しかし、子どもたちの中には、友達はただ単に一緒に遊んだり、自分にとって都合の良いことをしてくれたりする存在という思いを抱いている子供もいる。そこで、自分の利害に関係なく相手の良さを認め、信頼し助け合うことで本当の友情が育まれることに気付かせたい。また、それぞれの立場に立って考えさせることで、友情には相手の気持ちを思いやること，自分の気持ちをきちんと伝えることが大切であることに話し合いの中で気付かせたい。さらに、友達ともより良い関係を築くことで、お互いを高め合う仲間集団としての意識をもたせたい。

（２）児童の実態　（３１名）

４年生は１学級で、ほとんどの児童が同じこども園の出身であるため、お互いのことをよく分かっている。休み時間には多くの児童が一緒に遊ぶなど、仲の良い姿が見られる。反面自己主張の強い児童もいるため、お互いに自分の思いを通そうとして些細なことからけんかになることが多い。長い付き合いで遠慮がないため、言いたいことを言い合える間柄ではある。また、けんかをしてもすぐに仲直りできる良い面もある。そのため全員がアンケートでは「大切な友達がいる」と答えている。しかし、相手の良さを見るよりも、相手の欠点をからかったり、あおったりするなど、健全な仲間集団としては足りない面が見られる。

そこで、本当の友達についてじっくり考えさせることで、自分を振り返り、今後の友達との関係やより良い仲間としての集団について意識させたい。

（３）教材について

いつも班の友達から、自分たちがやりたくないことをやらされているたくやさんを見ていられないゆい。たくやさんに本当の気持ちを聞くが、たくやさんは「いいんだよ。ああでもしないと仲間に入れてもらえないから･･･。」と、涙を浮かべながら立ち去る。

たくやさんを心配して声をかけるゆい、自分の本当の気持ちを表せず無理をしているたくやさん、たくやの本当の気持ちに気付こうとせずにやりたくないことをおしつける班の子供達等の立場に立って、それぞれの思いを話し合う。お互いの気持ちを考えた上で、自分だったら友だちとより良い関係を築くためにはどうしたらいいか考えさせたい。

３　ね ら い

たくやさんやゆい、班の友達、周りの友達など、それぞれの立場の思いについて話し合うことを通して、本当の友達やより良い人間関係の在り方について考えを深め、相手の良さを認め、助け合おうする心情を育てる。

４　展　　開

過程	学習活動	発問と予想される児童・生徒の反応 ○基本発問 ◎中心発問 ☆補助発問	指導上の留意点
導入３分	１友達の考えと自分の考えを比べる	○友達が大切だと感じるのはどんな時ですか。	・ねらいとする価値への方向性を図るため、「友達について」のアンケート結果を提示する。

	めあて「本当の友達になるために大切なことは何だろう。」		
展開 **20**分 10分 10分 7分	２教材文を読んで話し合う。 ３本当の友達について意見を交流する。	○ゆいはどんな気持ちからたくやさんに声をかけたのでしょう。 ☆ゆいはどんなことに気付いたのかな ･本当はいやな思いをしているんじゃないか心配だった。 ･このままだといじめにつながってしまう ･いやなことを押しつけられているたくやさんがかわいそうだと思った。 ○下を向いてしまったたくやはどんな気持ちだったでしょう ･仕方ないんだよ。 ･本当のことは言えないよ。 ･本当はいやだけど我慢するしかない。 ○班の子達はどんな気持ちで牛乳パックを片付けさせたのでしょう。 ･せっかくそう言ってるんだからやってもらおう。 ・嫌って言わないからやらせちゃおう。 ・面倒だから助かる 問題なのは何でしょうか。 ○ゆいに「心配なの。どうなの。」と聞かれたたくやさんは、どんなことを考えたでしょうか。 ･ぼくのことを思ってくれてありがとう。でもほっといてほしい。 ･なんとかしてほしいけど、我慢するしかない。 ･仲間に入れてもらうためには仕方ない。 ◎このあと友達同士でよりよい関係を築くために、ゆいはどんなことをするでしょうか。 ・たくやに、いやなことはいやって言った方がいいと伝える。 ･たくやが一人でやることを手伝う。 ･班の友達に、「いじめだよ。たくやが悲しそうな顔をしているよ」という。 ･友だちと何人かでたくやの味方をする。 ○本当の友達になるために大切なことはどんなことでしょうか。 ･相手の気持ちを思いやって自分がいやなことは友達にもやらない。 ・自分がいやだと思ったら上手に断る。 ･困ってる子がいたら声をかけ助けあう。	・状況や気持ちが把握しやすいように、場面絵を提示する。 ･ゆいの気持ちを考えられるように、が何に気が付いたのか確認する ・いじめは何気ない言動から始まることに気付けるように，小さなことがいじめにつながることに気付かせる。 ･たくやの気持ちを多角的に考えられるように、たくやが下を向いてしまった場面絵も取り入れる。 ・たくやの気持ちを考えていなかったことに気付けるように、班の友達の気持ちを考えさせる。また、第三者の立場から、問題点は何かに気付かせる ・たくやが涙を浮かべていた気持ちを深く考えられるように、「ああでもしないと仲間には入れないから･･･。」という言葉を板書する。 ･互いの考えを効果的に交流できるように、自分の意見をノートにまとめる時間を確保する。 ･様々な意見に気付けるように、机間巡視をしながら意図的指名も行う。 ･多面的･多角的に考えられる様に、追発問を適切に行い，個の考えを深く聞き取る。 ・全員が思いを表現できるように、隣や前後の友達と交流させる。
3分	振り返りをする	○学習を終えて考えたことや思ったこと、これからの自分について書きましょう。	･これまでの経験を振り返りながら、本時の学習を振り返るように言葉かけを行う。

5　授業記録

（1）成果

○教師と子供の人間関係が構築されているため、本絵が言い合える雰囲気があった。本音が言えるからこそ，子供達は様々な考えに触れることができた。また、子供達のつぶやきを拾い上げ，繋ぐことができた。このことは、子供達が多面的･多角的に考えたり、自分事として捉えたりすることに繋がった。

○ファシリテーターとして、子供と子供を繋ぐという気持ちは表れていた。そのため子供達の反応がよく、意見が進んで言えた

（２）課題

○友達とより広く交流するために、ＩＣＴを活用するといい。

・ジャムボードを使うと全員の意見を見ることができる。また、色分けをすると、全体の考えが一目で分かるので効率がよい。

・フォームでアンケートをとっていたので、テキストマイニングを使うとより分かりやすい。

○発問を精選すると、子供達はより深く話し合うことがｄ啓太。１時間の授業構成を考える中で、発問内容をさらに工夫する必要がある。

○構造的な板書を意識し、子供の思考の流れが明確になるようにすることで、より自分事として捉えられるようになる。

Ⅲ　まとめ

成果と課題を踏まえて,よりテーマに迫るために今後以下のような取り組みを行っていく。

（１）児童と児童をつなぐ教師の発問の工夫とファシリテーター　（図１）

教師の言葉掛けを意識して減らし、子供と子供の意見を繋ぐように心掛けたところ、子供がより多様な意見を出せるようになり、本音で話し合うことができるようになってきた。

今後も自分の考える方向に意見を向けるのではなく、多面的・多角的に考えられるように発問を工夫する。

（２）道徳ノート　（図２）

・「めあて」を書く。「振り返り」の視点を提示する。

・自分の考えが分かるように、必要な友達の意見とそれに対する自分の考えや気持ちを付け加える。

（３）ＩＣＴの活用（図３・図４）

・ジャムボードを使って,自分の考えを付箋に書いたり心情円で表したりして、意見を分類・整理、共有する。

・フォームで事前アンケートを採り、提示する。

・意見を効率よく交流するため、また発言の少ない児童の意見も取り入れられるように,ＩＣＴの活用については今後も研修をしながら進めていく。

（４）その他

場面絵の配置方を工夫することで、内容理解を深め、思考の流れが解るように全体の構成を考え、板書を工夫する。教師との対話や役割演技などで本音を引き出し議論を活性化させたい。

図１　ファシリテーターの役割

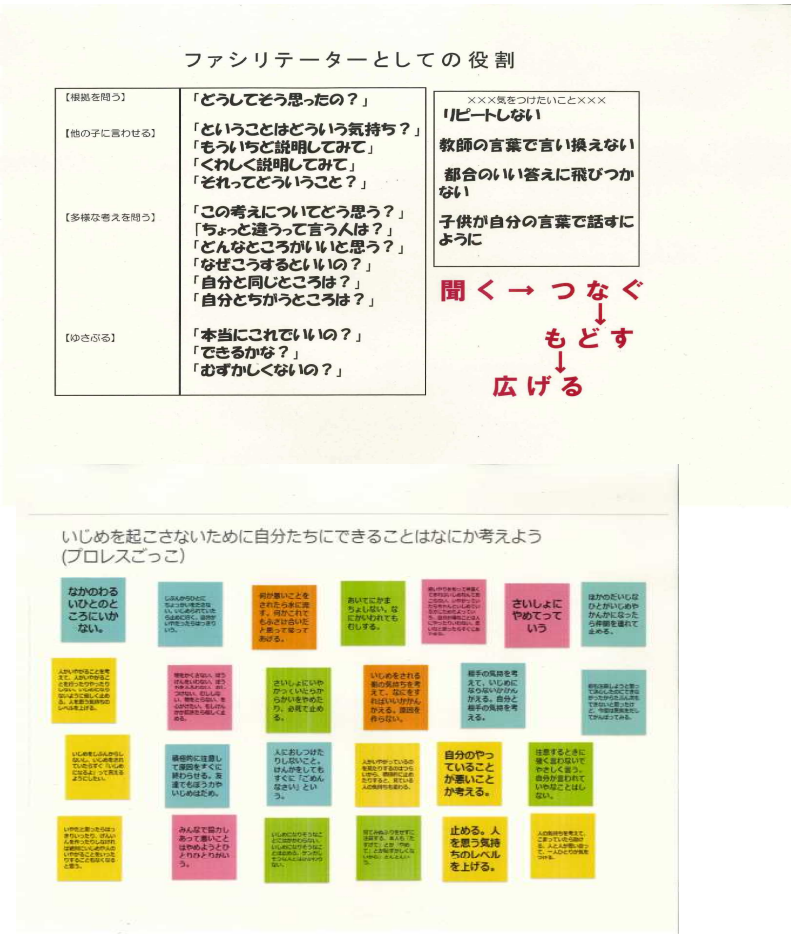

図２　道徳ノート

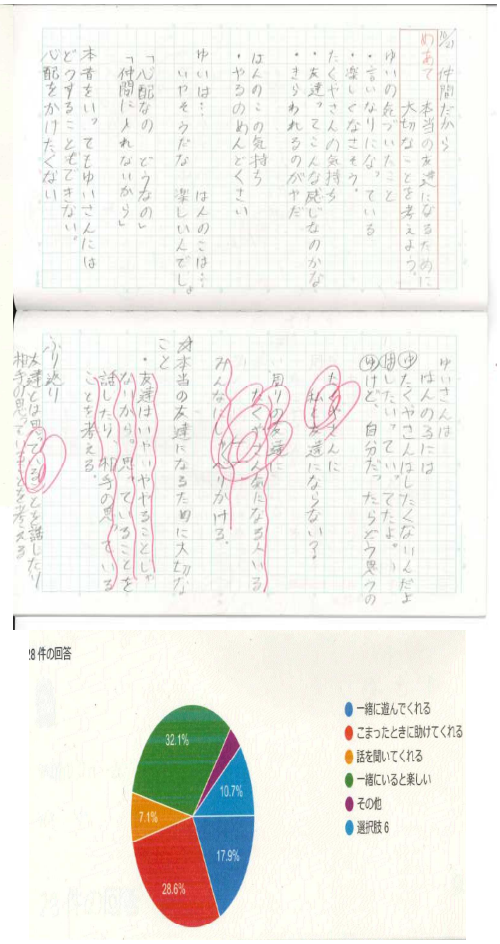

図３　ＩＣＴ活用　　図４ＩＣＴ活用